



【写真】上：小谷陶磁器研究所 小寺彦彦撮影 2004年
右：デザイン画 日根野作三 1950-61年 多治見市美濃焼ミュージアム〔前後期〕
右中：陶製ドーナツ 小谷陶磁器研究所 1951-58年 土岐市陶磁器試験場〔前期〕
左下：秤 小谷陶磁器研究所で使用 土岐市陶磁器試験場〔前後期〕

Fujio Koyama and MINO
— With the History of Craft Design in the Showa Period —



関連イベント

《学芸員講座》

第1回『小山富士夫と美濃』

2021年10月31日(日) 午後1時30分～午後3時

講師：春日美海(土岐市美濃陶磁歴史館学芸員)

第2回『戦後の美濃窯業 — 日根野作三・安藤知山との関わりを軸に』

2021年11月28日(日) 午後1時30分～午後3時

講師：鍋内愛美(土岐市美濃陶磁歴史館学芸員)

会場：土岐市文化プラザ 3階 視聴覚室
(土岐市土岐津町2121-1 土岐市役所隣)

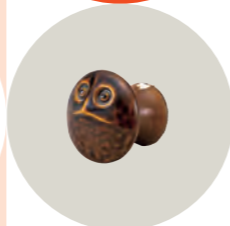
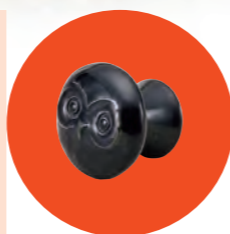
定員：35名 ※先着順

【申込】

電話(0572-55-1245)または
メール toki_museum@toki-bunka.or.jp で
※メールには希望回(日付)、参加者全員の氏名、
代表者電話番号、居住市町村名を記入。



EVENT INFORMATION



日根野作三
×
安藤知山

Craft
Design
movement



【前期】2021 9.17(金) → 12.5(日)

小山富士夫と美濃

Fujio Koyama and MINO – With the History of Craft Design in the Showa Period –

— 昭和の窯業界のあゆみとともに —

【後期】2021 12.9(木) → 2022 2.13(日)

【開館時間】午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

【入館料】【一般】200円(150円) 【大学生】100円(70円) 【高校生以下】無料
障がい者手帳をお持ちの方および介助者1名まで【一般】100円【大学生】50円*()内は20名以上の団体料金
現在、新型コロナウイルスの感染予防・拡散防止のため、団体(大人数)でのご来館はご遠慮いただいておりますが、今後の状況により変更となる可能性があります。

【休館日】月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/7・8(展示替期間)、年末年始(12/26～1/6)

【出品協力】愛知県陶磁美術館、愛知県美術館、可見市荒川豊蔵資料館、岐阜県現代陶芸美術館、岐阜県立多治見工業高等学校、多治見市美濃焼ミュージアム、土岐市陶磁器試験場
企画：公益財団法人 土岐市文化振興事業団

【写真】上：花の木窯にて小山富士夫 1974年 / 種子島茶碗 銘「浪月」小山富士夫 愛知県美術館(木村定三コレクション)〔前期〕
下：銅版土瓶 知山陶苑〔後期〕 / 銅版カップ&ソーサー 知山陶苑〔後期〕 / 冷水瓶 土岐市陶磁器試験場〔前期〕 / デザイン画 日根野作三 多治見市美濃焼ミュージアム / 急須 知山陶苑(クラフトミノ) 多治見市美濃焼ミュージアム〔前期〕 / 土岐市陶磁器試験場にて日根野作三(左) / 背景銅版画 知山陶苑・中上良子 *前期・後期で展示の入れ替えがあります。詳細はホームページでご確認ください。

土岐市美濃陶磁歴史館
TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

《学芸員による展示解説》

10月2日(土)・11月3日(水・祝)・1月30日(日) 午後2時～
参加費無料 *要入館料 定員：先着30名(事前申し込み不要)

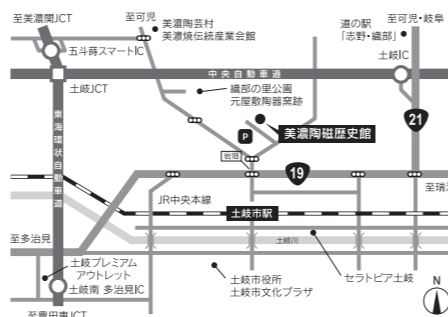
土岐市美濃陶磁歴史館
TOKI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MINO CERAMICS

新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、イベントを中止する可能性があります。最新情報は、美濃陶磁歴史館ホームページをご確認ください。

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻1263 TEL.0572-55-1245 FAX.0572-55-1246

土岐市文化振興事業団ホームページ <http://www.toki-bunka.or.jp/history>

【鉄道】名古屋駅からJR中央本線「土岐駅」下車 徒歩約10分 【自動車】●中央自動車道「土岐IC」から約7分
●東海環状自動車道「五斗崎スマートIC」から約5分 ●東海環状自動車道「土岐南多治見IC」から約10分





小山富士夫、花の木窯 陶房にて
1973-75年 三枝朝四郎撮影 / 土岐市美濃陶磁歴史館

第1部

小山富士夫と美濃

世界的な陶磁研究者として知られる小山富士夫（1900-75）は、若い頃に陶工を志した後、研究者へと転じ、現在の陶磁研究の基礎を築いた人物です。小山は1960年（昭和35）の「永仁の壺事件」以後に作陶を再開、1973年（昭和48）に陶芸家塚本快示を介して交流のあった二宮安徳市長の招きにより土岐市へ移住し、「花の木窯」を開きます。小山は種子島の土による作品を独特の薪窯で焼成するなど、短期間ながら精力的な創作活動を行い、1975年（昭和50）に土岐市において75歳の生涯を終えます。晩年を土岐市で過ごした小山ですが、美濃との関わりは長く、とくに親しかった陶芸家荒川豊蔵との交流により昭和初期からたびたび美濃を訪れていました。本展では第1部で小山と美濃との関わりをたどりながら、小山の陶芸家としての一面をご紹介します。

荒川豊蔵との出会い

戦火の定窯址発見

1926



瀬戸黒茶碗 銘「花ノ木」
荒川豊蔵 / 1935-44年
可児市荒川豊蔵資料館
小山富士夫が所持し、
没後に荒川豊蔵に返され、
「花ノ木」と命名された。



潞安茶碗
中国 可児市荒川豊蔵資料館
1941年、小山富士夫が定窯址を発見した
中国調査旅行の際、山西省潞安で買い求め、後に荒川豊蔵に贈った品。



花の木窯 窯開きの日
三浦悠撮影 / 1973年5月 岐阜県現代陶芸美術館提供
瀬戸黒茶碗 銘「花ノ木」を手に談笑する荒川豊蔵（右）、
左に本多静雄（陶磁研究者）、二宮土岐市長、小山富士夫

1973 美濃陶芸村開村と花の木窯開窯 偉大な陶磁研究者の人生の終着点



花の木窯遠景 1974年11月
左端の赤く色づいた大木が窯名の由来となった「ハナノキ」



温かい心と冷たい眼

書「温心寒眼」
小山富士夫 土岐市美濃陶磁歴史館
よく物を見る根本の態度を言い表して、小山が用いた言葉。
※前後期の中で入替展示



色絵「花」字茶碗 後期
小山富士夫 永福窯（鎌倉）
1969年
土岐市美濃陶磁歴史館



青白磁水指 前期 後期
小山富士夫
1960-70年代
土岐市駄知町の快山窯にて制作。

永仁の壺事件後の 作陶再開 1960 全国の窯場を巡り作陶「窯場荒らし」



白搔落花生 前期
小山富士夫 花の木窯 / 1973-75年
岐阜県現代陶芸美術館



種子島壺 後期
小山富士夫 花の木窯
1973-75年
土岐市美濃陶磁歴史館



花の木窯 陶房（左）と窯場（右）
三浦悠撮影 / 1973年5月
岐阜県現代陶芸美術館提供

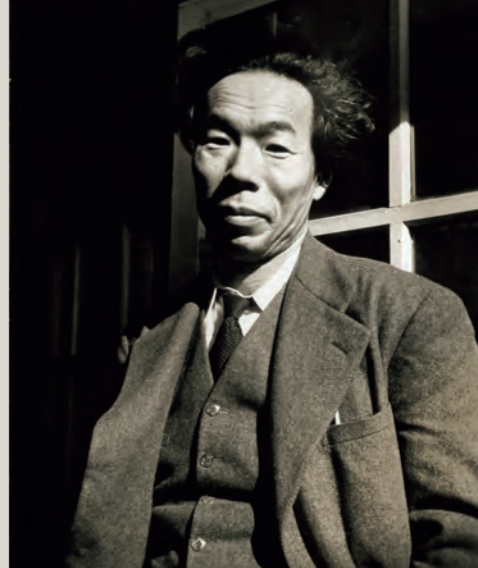


花の木窯 陶房立面図（原図） 前期 後期
半澤重信 / 1972年

第2部

もう一つの戦後、美濃

第2部では、1947年（昭和22）に設立された日本陶磁振興会に小山や荒川らとともに加わり、陶磁器製品の質の向上に尽力した陶磁器デザイナー日根野作三の活動を軸に、戦後の美濃窯業界の様子をご紹介します。日根野は京都・信楽・四日市・美濃でのデザイン指導を通して、機械化の波を受け入れつつも手仕事の重要性を説き、クラフトデザインの精神を各地に伝え広めました。美濃では、製陶業を営む安藤知山という同志を得たことで活動の広がりをみせ、1958年（昭和33）に新設された土岐市陶磁器試験場の顧問を務めるなど、小山とは異なるかたちで美濃に深く関わりこの地の窯業に大きな影響を与えました。本展では、小山や日根野と美濃との関わりを通し、美濃焼が地場産業として地域の希望となり、さらに、その歴史や芸術性について多方面から注目が集まった時代の様子をご紹介します。

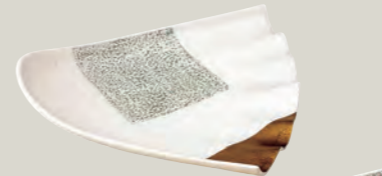


日根野作三 多治見にて / 1953年

1947 同志、安藤知山との出会い 日根野作三、美濃での指導



デザイン画
日根野作三
1954-55年
多治見市美濃焼ミュージアム



ペリーセット 後期
知山陶苑 / 1950年代 土岐市美濃陶磁歴史館（左）
日根野作三、澤田米三（痴陶人）、安藤知山は、歪みが原因の製品ロス削減のために最初から波打った皿を開発。



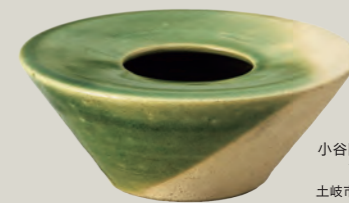
獅子牡丹文三段重
安藤知山 / 1930-40年代
商工展入選作品。



銀彩陶板 前期 後期
知山陶苑

小谷陶磁器研究所設立 クラフトによるものづくりと 後進育成の場 1952

兎窯の前で 1952年頃
研究生の修業期間は2年。
日根野作三の厳しい批評のもと、
悪い物は全て壊され良い物だけ焼成できた。



卓上小品 後期
小谷陶磁器研究所
1951-58年
土岐市陶磁器試験場
使う人が用途を決める器。



粉引花器 前期
小谷陶磁器研究所 / 1951-58年
土岐市陶磁器試験場



急須 後期
伊藤慶二 / 1950-60年代
多治見市美濃焼ミュージアム

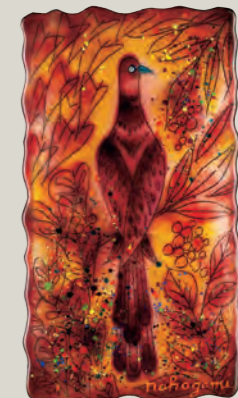


1960- 美濃で波及した クラフトデザインの精神



ストーンウェアティーセット 後期
光洋陶器 / 1964-68年
多治見市美濃焼ミュージアム

焼鉢 前期 後期
中島正雄 / 1950-60年代
多治見市美濃焼ミュージアム



エマイユ（七宝）額 前期
中上良子